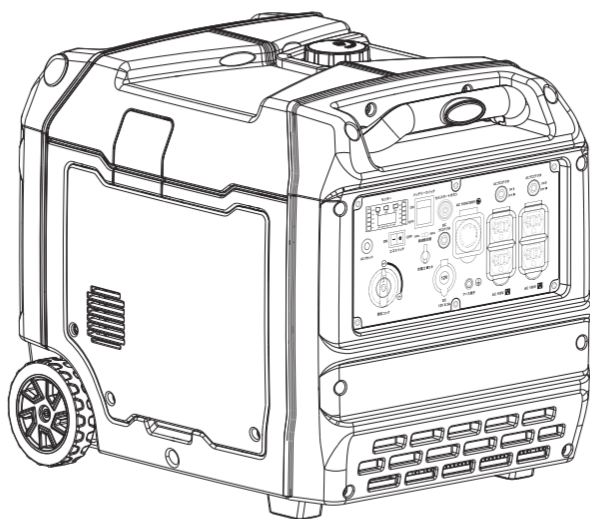


# EENOUR



## インバーター発電機DK5500iHE 取扱説明書








# はじめに

このたびは「EENOURインバーター発電機DK5500iHE」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

## 安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

 危険	人が死亡または重傷などを負う可能性が高いと考えられる内容です。
 警告	人が死亡、または重傷などを負う可能性が想定される内容です。
 注意	人が損傷を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容です。
 禁止	取扱においてその行為を禁止します。
 指示	指示に基づく行為を強制します。

この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

# 目次

安全にお使いいただくために	01～03
各部の名称と取り扱い	04～10
・各部の名称	04
・コントロールパネル部	05
・各部の取り扱い	06～10
運転前の点検	11～13
・燃料の給油	11
・エンジンオイルの給油	12
・エンジンオイルの量の確認	12
・エンジンの始動前の確認事項	13
発電機のかけ方	14～15
・エンジンの起動	14
・エンジンの停止	15
電気の取り出し方	16～19
・使用環境について	16
・配線接続について	16
・AC コンセント 100V/20A	17
・AC コンセント 100V/200V	18～19
・DC シガーソケット 12V/8.3A	19
・発電機の接地方法	19
点検・整備の仕方	20～25
・定期点検表	20
・バッテリーの充電	21
・エンジンオイルの交換	21
・点火プラグの点検と清掃	22
・燃料タンクストレーナーの清掃	23
・エアクリーナエレメントの清掃	24～25
運搬する場合には	26
一時保管・長期保管	27
不具合時の対応	28
仕様諸元	29
配線図	30
保証期間およびお問い合わせ	31
保証書	32



# 安全にお使いいただくために

運転、保守、点検の前に必ずこの取扱説明書、および商品本体に貼付されているラベル全てを熟読し、正しくご使用ください。商品の知識、安全の情報そして注意事項の全てに習熟してからご使用ください。

## 危険

### ❗ 燃料補給時など燃料取扱時には、火気厳禁

タバコを吸ったり、炎や火花などの火気を近づけないでください。燃料はエンジンを止めてから補給してください。燃料への引火や火災の原因となります。

### ❌ 本機付近に障害物や危険物、燃えやすい物を置かない

建物およびその他の設備から1m以上離して設置してください。火災や故障の原因となります。

### ❌ 燃料をこぼさない

燃料がこぼれた場合は、きれいに拭き取り、乾かしてからエンジンを始動してください。拭き取った布切れなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

### ❌ 車内、テント内、倉庫など室内および換気の悪い場所では運転しない

エンジンの排気ガスには有害な物質が含まれているため、ガス中毒を起こす原因となります。

### ❌ 傾斜地で使用しない

平坦・水平で硬い場所で使用してください。また、運搬時は燃料を抜いてください。燃料タンクキャップから燃料がこぼれ、火災の原因となります。

### ❌ 本機の周りにガソリン、または危険物や燃えやすい物を近づけない

本機から出る排気ガスは熱くなります。本機や本機に接続された電気機器に損傷を起こすだけでなく、思わぬ事故を起こす原因となります。

### ❌ 電力会社からの電気配線には絶対接続しない

本機や接続の電気機器を故障させたり、火災あるいは人身事故の原因になります。

### ❌ 雨の中や水のかかる場所では使用しない

雨や水で濡れた発電機や接続の電気機器を使用したり、また濡れた手で操作すると感電するおそれがあり危険です。

# 安全にお使いいただくために

## ⚠ 注意

### ❗ 本機を分解、修理、改造しない

取扱説明書に記載されている以外の分解や修理・改造は絶対に行わないでください。異常動作してけがをする、また本機や本機に接続された電気機器が故障する原因となります。

### ❗ エンジンを始動させる前に必ず運転前点検を行う

人身傷害や機械の破損を防止することができます。手や足をはさんだり、思わぬ事故が起きる原因となります。

### ❗ 長期保管前には燃料タンク内の燃料を抜き取り、本機を火気や湿気、凍結のおそれのない場所に保管する

抜き取った燃料は火災や爆発の原因となりますので、適切に処理してください。

### ❗ 点検や清掃時は必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにバッテリースイッチをOFFの位置にし、点火プラグキャップを取り外す

エンジン停止直後のエンジン本体や排気口などは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

## ⚠ 警告

### ❗ 熱くなっている排気口やエンジン各部をさわらない

やけどの原因となります。

### ❗ 本体に直接砂ぼこり、粉じん、煤煙などがかかる場所では使用しない

エンジン部品の早期摩耗の原因となります。始動時や運転中は、高圧コードや点火プラグ、点火プラグキャップに触れないでください。感電の原因となります。

### ❗ エンジン部や排気口部が十分に冷えるまで、本機にカバーを掛けない

火災の原因となります。

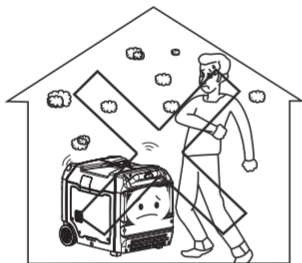
### ❗ 使用中に音、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止する取り外す

お買い上げ販売店またはサービス店にお申しつけください。燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は、石けんと水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、燃料が目に入ったりした場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

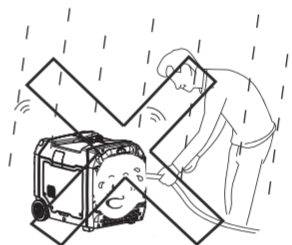
### ❗ 運搬、保管、運転時のいずれも本機が落下、横倒、破損などしないよう水平を保つ

エンジンが故障したり、残っているガソリンがあふれたりする場合があります。特に運搬時には転倒しないようロープなどでしっかり固定してください。

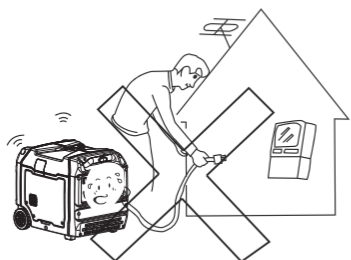
# 安全にお使いいただくために



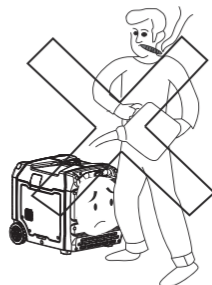
室内では絶対に使用しないでください。



雨の中や水のかかる場所では使用しないでください。



始動する前に電気製品を接続しないでください。



給油中はタバコやマッチなどの火気を近づけないでください。



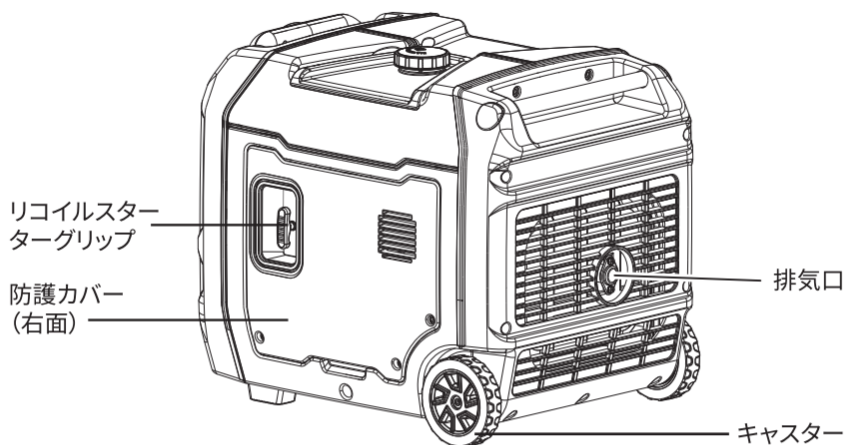
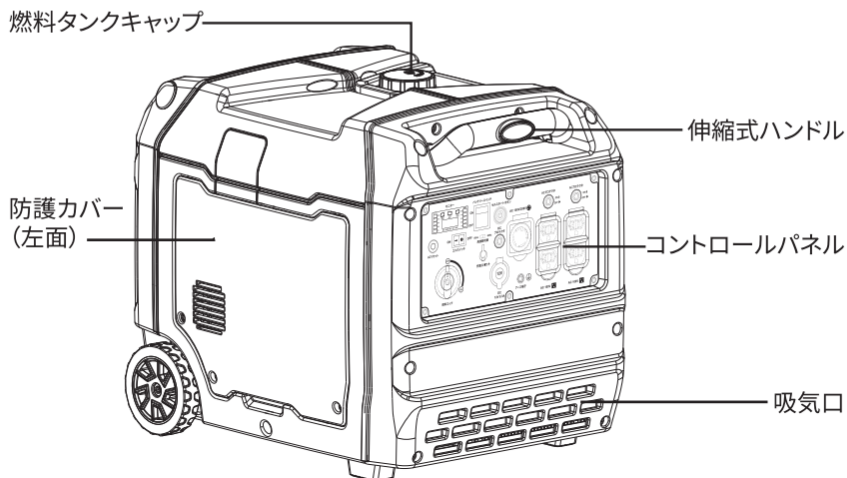
給油中は燃料をこぼさないでください。



燃料の給油は必ずエンジンを停止し、エンジンが十分冷えてから行ってください。

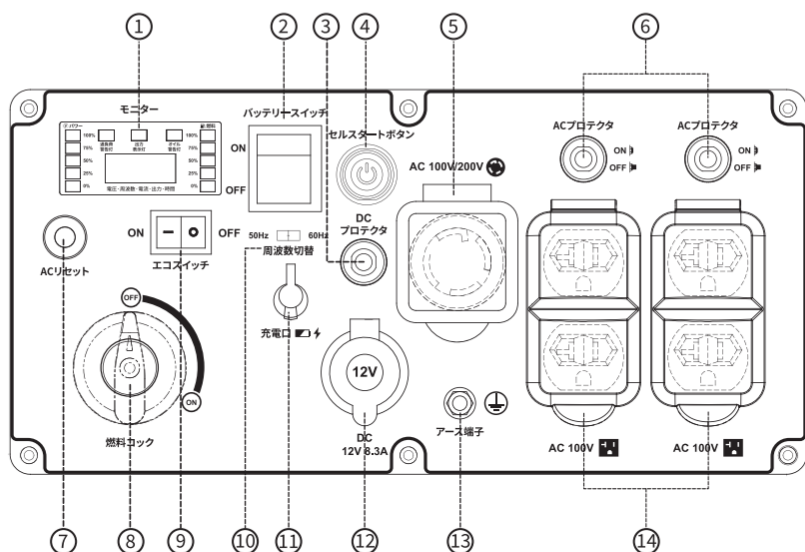
# 各部の名称と取り扱い

## 各部の名称



# 各部の名称と取り扱い

## コントロールパネル部



①LCDモニター	②バッテリースイッチ	③DCプロテクタ
④セルスタートボタン	⑤AC出力コンセント100V/200V	⑥ACプロテクタ
⑦ACリセットスイッチ	⑧燃料コック	⑨エコスイッチ
⑩周波数切替スイッチ	⑪バッテリー充電口	⑫DCシガーソケット
⑬アース端子	⑭AC出力コンセント100V/20A	

# 各部の名称と取り扱い

## 各部の取り扱い



過負荷  
警告灯



出力  
表示灯



オイル  
警告灯

### 1.過負荷警告灯・出力表示灯・オイル警告灯

・過負荷警告灯(赤):発電中に使用電気機器に異常があった場合や、過負荷のときに出力表示灯が消え過負荷警告灯が点灯し、電気が取らせなくなります。

・出力表示灯(緑):発電が始まると点灯します。インバーターが使用可能であることを示します。

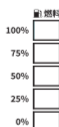
・オイル警告灯(赤):本機にはオイルが少ない場合に自動的にエンジンが停止するオイルアラート機構が内蔵されています。エンジンオイルが不足し焼付きが起こる前にこの機構が働き、エンジンを停止させオイル警告灯が点灯します。

⚠注意:電気機器によって起動時に起動電力が消費電力の1.1倍～5.0倍位掛かることもあるので、使用したい電気機器の起動電力の合計が5000W以下であることを確認してください。



### 2.パワーインジケーター

電力使用目安を示すものです。電気使用量が増加するにつれて0%→100%の順に点灯します。



### 3.燃料インジケーター

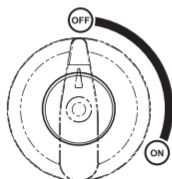
燃料の残量を示すものです。ガソリンが減るにつれて100%→0%の順に消灯します。



電圧・周波数・電流・出力・時間

### 4.LCDモニター

発電機の出力電圧、周波数、出力電流、出力ワット数や累積使用時間はローテーションで表示されます。



燃料コック

### 5.燃料コック

燃料の流れを制御し、エンジンの始動、停止を行います。

OFF(閉)のままでガソリンが流れません、エンジンが始動できません。

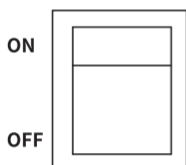
・ON(開):エンジンをかけるときの位置です。

・OFF(閉):初期状態です。停止および保管、運搬時の位置です。

# 各部の名称と取り扱い

## 各部の取り扱い

### バッテリースイッチ



### 6. バッテリースイッチ

バッテリーからの電源供給のON／OFFを行なうスイッチです。

・ON:本機が起動、運転時の位置です。

・OFF:本機が保管、運搬時の位置です。

**⚠注意:**バッテリースイッチを「OFF」の位置にするのは必ずエンジン停止の状態で行ってください。本機を保管および運搬する時はバッテリースイッチを「OFF」の位置にしてください。バッテリーの消耗を抑えることや、不意の誤作動を防ぐことができます。

### セルスタートボタン



### 7. セルスタートボタン

バッテリーの電力を利用し、モーターを回転させ、その動力でエンジンを始動させる装置です。

バッテリーコネクタが接続済み、バッテリースイッチがONの状態、セルスタートボタンを一回短く押すとエンジンが起動します。もう一回短く押すとエンジンが停止します。

**⚠注意:**セルスタートボタンを長押しすれば緑色に光りますがエンジンが起動しないことがあります。



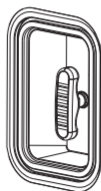
### 8. リモコン

ペアリング方法:セルスタートボタンを3～5秒間長押しして、緑ライトが点灯したら、リモコンのON/OFFを消灯するまで長押しすると接続が完了します。

・ON(開):ONボタンを2秒間長押しするとエンジンが起動します。

・OFF(閉):OFFボタンを2秒間長押しするとエンジンが停止します。

**⚠注意:**発電機とリモコンは出荷時に既にペアリングされています。



### 9. リコイルスターターグリップ

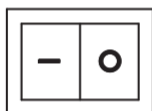
エンジンを始動させるときに使用します。

**⚠注意:**バッテリー残量が少なくなる時、リコイルスターターで起動する場合もバッテリーコネクタを接続し、バッテリースイッチをONにする必要があります。

# 各部の名称と取り扱い

## 各部の取り扱い

ON



OFF

エコスイッチ

### 10.エコスイッチ

・ON (作動) : エコモードを使用します。電気機器を使用すると自動的にエンジンは電気の使用量に応じたエンジン回転数となり、電気機器を使用しないときは自動的に低速運転になります。燃料消費と騒音を減らします。

・OFF (解除) : エコモードを使用しません。電気機器の使用の有無にかかわらず、エンジンは定格回転で運転します。

**⚠ 注意:** 冷蔵庫、コンプレッサー、溶接機や水中ポンプなど、起動時に大きな起動電力を必要とする機器を使用する場合はエコスイッチをオフにしてください。

50Hz



60Hz

周波数切替

### 11.周波数切替スイッチ

周波数の切り替え (50Hz⇄60Hz) を行うスイッチです。エンジンを始動する前に、接続する電気機器に合わせて周波数を切り替えてください。エンジン運転中に周波数を切り替えることができません。



アース端子

### 12.アース端子

感電防止のアース線を取り付ける端子です。本機に接続する電気機器がアース付きプラグの場合は、本機も必ず接地(アース)してください。



DC  
12V 8.3A

### 13.DCシガーソケット

シガーソケットから12V入力 of 車載冷蔵庫、車載炊飯器、冷温庫などに使えます。

DC  
プロテクタ



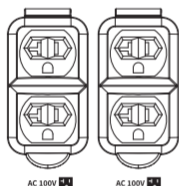
### 14.DCプロテクタ

シガーソケットの温度がDCプロテクタ (過熱保護装置) に設定された温度を超えた時にDCプロテクタボタンが飛び出して“断”になり、電気が取出せなくなります。接続配線に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからDCプロテクタを“入”にします。



# 各部の名称と取り扱い

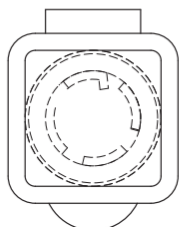
## 各部の取り扱い



### 15.AC出力コンセント20A

本製品は2箇所の20Aコンセントを搭載しております。また、1箇所では2つの差し込み口が付いています。

20Aコンセント1箇所当たり合計2000Wまで使うことができます。



### 16.AC出力コンセント100V/200V

このコンセントに流せるアンペア数は25Aまでとなります。

このコンセントから電気を取り出すには、NEMA規格L14-30Pに準拠した引掛プラグ(別売部品)を使用してください。引掛プラグの配線方式によって、100V/25Aまたは200V/25A(単相)の電気を取り出すことができます。

参考プラグ:アメリカン電機(株)製 4312N-L14



### ACリセット

### 17.ACリセットスイッチ

過負荷警告ランプが点灯および出力表示ランプが消灯し、電気が取り出せなくなったとき、このボタンを押してリセットすることで、出力表示ランプが点灯し電気の供給が再開されます。このボタンを押す前に下記を確認してください。

- ・本機から使用している電気機器を取り外してください。
- ・電気の取り出しすぎがないか。使用する電気機器は必ず定格出力内で使用してください。



### 18.ACプロテクタ

AC出力コンセントの温度がACプロテクタ(過熱保護装置)に設定された温度を超えた時にACプロテクタボタンが飛び出して“OFF”になり、電気が取れなくなります。接続配線に異常がないか、また電気の取出し過ぎがないか確認してからACプロテクタを“ON”にします。

# 各部の名称と取り扱い

## 各部の取り扱い




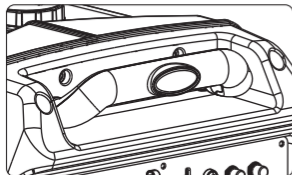
充電口  

### 19.バッテリー充電口

内蔵バッテリーを充電できる専用ACアダプター（別売部品）の出カプラグを差し込む端子です。発電機の内蔵バッテリーの残量が少なくなり、セルスタートができない時は専用ACアダプターを使って充電してください。


専用ACアダプターについては、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

 注意：バッテリーを専用ACアダプターで充電する場合は必ずエンジンを停止してから行ってください。また、専用ACアダプター以外は使用しないでください。バッテリーの故障や破裂の原因となります。



### 20.伸縮式ハンドル

移動時は伸縮式ハンドルのロック解除ボタンを押しながらレバーを伸ばしてください。

 注意：レバーは伸ばさない状態でハンドルを上を持ち上げる場合は、ハンドル部分が破損する恐れがあります。

# 運転前の点検

本機には「燃料」と「エンジンオイル」の2種類が必要です。下記をよくお読みいただき、必ず給油してからご使用ください。

## 燃料の給油

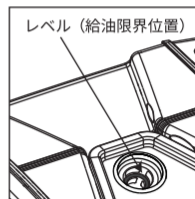
燃料タンクキャップを外し、燃料を給油します。作業は本機を水平にして行ってください。2回目以降の使用時:中にガソリンが残っていても劣化している恐れがあります。30日に1回、新しいガソリンに交換してください。

### 使用燃料:

無鉛ガソリン(自動車用レギュラーガソリン)

### 燃料タンク容量:

11.5L(赤レベルまで)



## 警告



禁止

- ・給油中は、タバコの火や他の火種になるようなものを近づけないでください。また、金属部に手を触れるなどして、身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
- ・エンジンが熱い時は給油しないでください。エンジン停止直後などエンジンが熱い時に給油すると引火のおそれがあります。



指示

- ・給油は、換気の良い場所でエンジンを停止してから行ってください。
- ・燃料を飲み込んだり、燃料蒸気を吸い込んだり、または燃料が目に入ったりした場合は、直ちに医師の診断を受けてください。また燃料が皮膚や衣類にこぼれた場合は石鹸と水で直ちに洗い、衣類は取り替えてください。
- ・必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。

## 注意



禁止

- ・燃料は規定量以上(ストレナーの赤レベル以上)、給油しないでください。燃料が漏れるおそれがあります。
- ・軽油、灯油や粗悪ガソリンなどを補給したり、不適切な燃料添加剤は使用しないでください。エンジンなどに悪影響を与えます。
- ・古い燃料は使用しないでください。携行缶などで長期保管したガソリンは、エンジン始動不良や故障の原因となります。



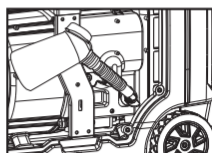
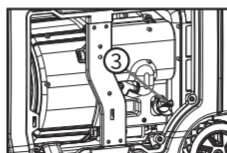
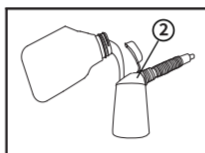
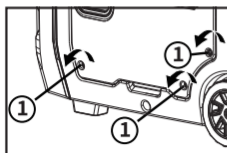
指示

- ・ガソリンは自然劣化しますので30日に1回、定期的に新しいガソリンと入れ替えてください。
- ・燃料の給油時、燃料タンク内に水・雪・氷・ゴミが入らないように注意してください。また、こぼれたときは、直ちに布きれなどで完全にふき取ってください。
- ・ガソリンを一時的に保管・運搬するときは、消防法に適合した携行缶を使用してください。特にペットボトルに保管すると、ガソリン内にペットボトルの成分が溶け出し、エンジンに悪影響を及ぼすおそれがあります。

# 運転前の点検

## エンジンオイルの給油

1. 防護カバー（右面）のネジ①を外してから、手前に引いて取り外します。
2. 付属のオイルジョッキ②のフタを開け、エンジンオイルを注ぎます。  
⚠ 注意：本機のエンジンオイル規定量が550mlで、付属のオイルジョッキの容量が220mlなので、したがって3回に分けて、220mlを2回と110mlを1回注入してください。
3. オイルゲージ③を外してオイルジョッキをオイル給油口に差し込み、本機を水平にしてエンジンオイルを規定量給油します。
4. 給油したらオイルゲージを取り付け、確実に締め付けます。防護カバーを取り付けます。



**推奨オイル:**4サイクル用エンジンオイル

**API分類:**SE級以上、SAE粘度分類:10W-30もしくは5W-30

**エンジンオイル規定量:**0.55L

## エンジンの始動前の確認事項

1. 平坦な場所に発電機を止め左側の防護カバーを外します。
2. オイルゲージを引き抜き、一度ウエスで拭き取ります。
3. オイルゲージを差し込んで（注入口からオイルゲージをねじ込まないで）から引き抜き、エンジンオイルが付着している部分の範囲で残量を確認します。
4. オイルゲージにはレベル線がついており、エンジンオイルがレベル線の上限付近まで付着していれば適正量です。



## ⚠ 注意



**禁止**

・エンジンオイルを給油しない場合、始動しないでください。オイルを入れ過ぎる場合は白煙が出て、アイドリングが不安定になることがあります。オイルが足りない場合は始動した後にオイル警告ランプが点灯し、直ぐに止まる場合があります。



**指示**

・オイルゲージは確実に締め付けてください。締め付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。  
・初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。  
2回目以降は100時間運転後、または6ヶ月後にオイル交換を行ってください。

# 運転前の点検

## エンジンの始動前の確認事項

- ・エンジンオイルは適量充填されていますか。
- ・燃料は購入 1 か月以内の新鮮なものが適量充填されていますか。
- ・周囲に燃えやすい物 (特にガソリンなど) や危険物は置いていませんか。
- ・周囲に火の気はありませんか。
- ・風通しは良いですか、また換気は十分ですか。
- ・使用場所が小石、土、砂利等で凸凹していたり、やわらかい場所で使用していませんか。やむを得ず使用する場合は、本機の下に板などを敷いて本機を安定させてください。
- ・傾斜地で使用していませんか。
- ・建物および他の設置物から1m以上離れていますか。また、排気口および吸気口は風通しの良い、広い場所に向けてありますか。

## 警告



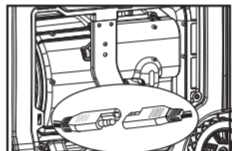
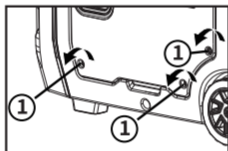
・車内、テント内、倉庫など室内および換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。エンジンの排気ガスには有害な物質が含まれているため、ガス中毒を起こす原因となります。

# 発電機のかけ方

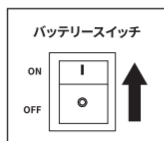
## エンジンの起動

1. バッテリーコネクターを接続します。

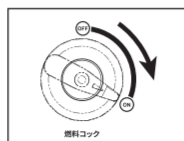
本製品を初めて起動する際には、予めバッテリー配線コード（赤黒）のコネクターを接続する必要があります。右面の防護カバーを外し、下図のようにバッテリー配線コードのコネクターを接続します。



2. バッテリースイッチを[ON]の位置にします。



3. 燃料コックを[ON]にします。



4. エンジンを始動します。

4.1【セルスタートボタンで始動する場合】

セルスタートボタンを奥まで押してクリック感を感じたら離します。

⚠ 注意：

① ボタンを押してもセルモーターが回転しない場合は、バッテリーコネクターの未接続とバッテリーの消耗が考えられます。

② 長時保管後、バッテリーの残量が少なくなり、セルスタートができないことがあります。この時はリコイルスターターで始動してください。または、専用ACアダプターを使ってバッテリーを充電してから再度セルスタートしてください。

③ セルスタートボタンを短く押してください。長押しすれば緑色に光りますがエンジンが起動しないことがあります。

4.2【リモコンで始動する場合】

ペアリング済みの状態でONボタンを2秒間長押しとエンジンが起動します。OFFボタンを2秒間長押しとエンジンが停止します。

⚠ 注意：

① 発電機とリモコンは出荷時に既にペアリングされています。

② 本リモコンの有効距離は20mですが、リモコンと発電機との間に障害物があると、操作できないことがあります。

③ リモコンの電池が消耗してくると、操作できる距離が徐々に短くなります。早めに新しい電池に交換してください。リモコン電池の種類はCR2016となります。

4.3【リコイルスターターで始動する場合】

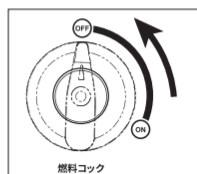
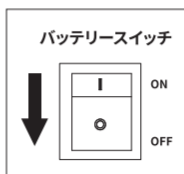
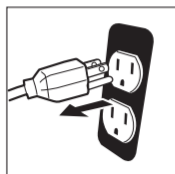
リコイルスターターグリップを軽く引き出し、重くなった状態から勢いよく引き、エンジンを起動させます。リコイルスターターグリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。

# 発電機のかけ方

## エンジンの停止

1. 電気機器のスイッチを[OFF]にし、電源プラグをコンセントから抜きます。
2. セルススタートボタンを押してエンジンを停止します、付属のリモコンを使用して停止することも可能です。
3. バッテリースイッチを[OFF]の位置にします。
4. 燃料コックを[OFF]にします。

⚠注意:必ずセルスタートボタンを押して、エンジンを停止してから、バッテリースイッチを[OFF]にしてください。直接バッテリースイッチを[OFF]にすると、電気回路のトラブルにつながります。



## 警告



禁止

- ・雨の中や水のかかる場所では使用しないでください。雨や水で濡れた発電機や接続の電気機器を使用したり、また濡れた手で操作すると感電するおそれがあり危険です。
- ・エンジンを始動する前に電気機器を接続しないでください。

## 注意



指示

- ・リコイルスターターグリップは勢よく引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると、点火火花が飛びエンジンがかかります。エンジン回転が遅いとエンジンがかからないことがあります。
- ・リコイルスターターハンドルを数回引いてエンジンが始動しない時は、20分間ほど発電機を換気性の良い場所に置いて、再度起動を試みてください。

# 電気の取り出し方

## 使用環境について

- ・適用温度:  $-5^{\circ}\text{C} \sim 40^{\circ}\text{C}$
- ・適用湿度: 95%以下
- ・適用標高: 1500m以下の地域(標高1000mを越えると大気圧が低くなり空気密度が薄くなるため、発電出力が低下することがあります。)

## 標準大気条件

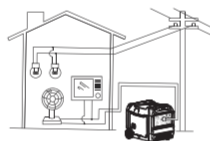
- ・周囲温度Tr: 298 k ( $25^{\circ}\text{C}$ )
- ・空気相対湿度 $\Phi$ r: 30%
- ・絶対大気圧Pr: 100 kPa

## 実際の環境条件が使用環境条件と一致しない場合:

- ・周囲温度が $5^{\circ}\text{C}$ 上昇するごとに、発電機の出力が約2%低下します。
- ・空気相対湿度が30%増加するごとに、発電機の出力が約1.5%低下します。
- ・標高が300 m上昇するごとに、発電機の出力が約4.5%低下します。

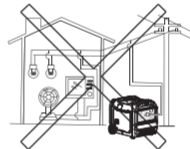
## 配線接続について

- ・発電機をバックアップ電源として家庭用電源に接続する場合は、電気工事士などの有資格者にご依頼ください。
- ・発電機に負荷を接続した後、電気接続が安全で信頼できるものであるかどうかを注意深く確認してください。不適切な電気接続は、発電機の損傷の損傷、焼損、火災の原因となります。
- ・発電機を建物などの商用電源には絶対に接続しないようにしてください。
- ・延長線を使用する場合は、その長さを超えないでください。
  - ①60 m断面積は $1.5 \text{ mm}^2$ です。
  - ②100 m断面積は $2.5 \text{ mm}^2$ です。
- ・外観は丈夫で弾力性のあるゴムカバー (IEC25) など保護する延長ケーブルを使用してください。



直接発電機に電気機器を接続する。

○  
可能



発電機を建物などの商用電源に接続する。

×  
禁止



電気工事士に依頼し、電源切替開閉器を設置して屋内配線に接続する。

○  
可能



# 電気の取り出し方

## ACコンセント100V/20A

本製品はIL・平行兼用型の20Aコンセントを搭載しております。普通の電気機器の電源プラグが挿せるだけでなく、100Vエアコンなどの電源プラグも挿せます。

1. 周波数切替スイッチを接続する電気機器の周波数に合わせます。
2. 発電機に接続する電気機器を大地にアースした場合は、発電機の本体も必ずアースしてください。
3. 「発電機のかけ方」に従ってエンジンを始動します。数秒後、出力表示ランプ(緑)が点灯していることを確認します。

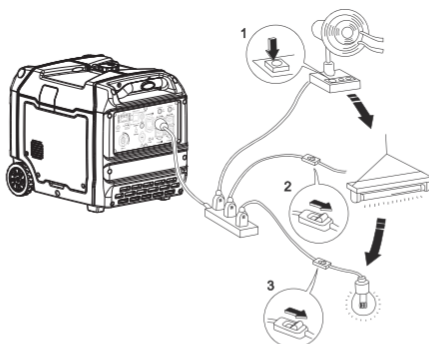
**注意:** 冷蔵庫、コンプレッサー、溶接機や水中ポンプなど、起動時に大きな起動電力を必要とする機器を使用する場合はエコスイッチをオフにしてください。

4. 接続する電気機器のスイッチが切れていることを確認し、20Aコンセントへ電気機器のプラグを確実に差込みます。

5. 電気機器のスイッチを入れます。正常運転(定格負荷)でご使用の場合は、出力表示ランプ(緑)が点灯し続けます。

6. 過負荷運転や使用電気機器が異常を起こした場合は、出力表示灯(緑)が消え、過負荷警告ランプ(赤)が点灯し続け、電気が取らせなくなります。

この場合、電気機器のプラグを取り外してください。そして、ACリセットスイッチを押してリセットすることで、出力表示ランプ(緑)が点灯し電気の供給が再開されます。



## 注意



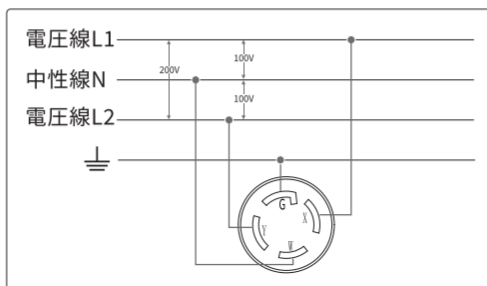
- ・精密機器・電子制御機器・パソコン・電子計算機・マイコン付機器および充電器類への使用は、発電機のエンジンノイズ(原動機雑音)の影響を受けない距離を確保してください。
- ・医療機器への使用は、事前に医療機器会社・医師・病院などに確認の上ご使用ください。
- ・電気工具類・汎用モーター類の一部には、取り出し可能範囲が上記表内の数値内でも起動電流が大きき使用できないことがあります。この場合は電気器具メーカーにご相談ください。
- ・コンプレッサーや水中ポンプなど、起動時に大電流が流れる電気器具を使用したとき、過負荷警告ランプが数秒間点灯する場合がありますが、これは故障ではありません。

# 電気の取り出し方

## ACコンセント100V/200V

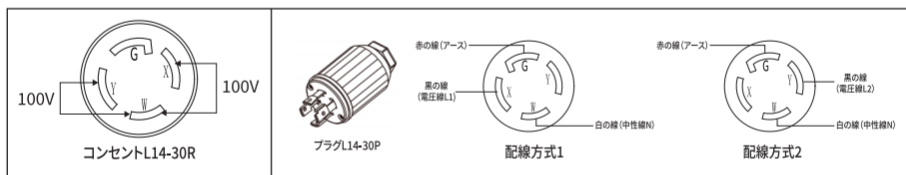
100V/200Vコンセントから100V/25Aまたは200V/25A(単相)の電気を取り出すことができます。プラグ側はNEMA規格のコンセントに対応する電源プラグとケーブルを使用し、配線作業を行う必要があります。プラグ側の配線作業に自信がない場合は無理に作業せず、電気工事士などの有資格者にご依頼ください。

### 配線図



### 配線方式 (100V/25A)

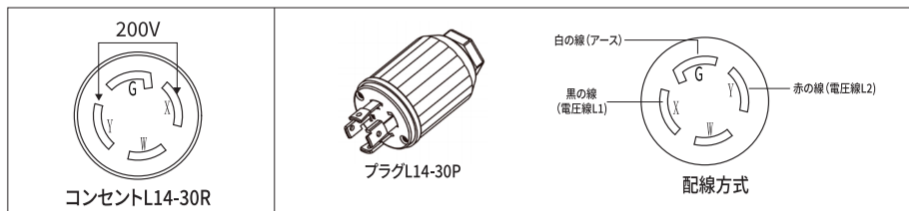
- ①電源プラグはNEMA規格L14-30Pに準拠した引掛プラグ(別売部品)を使用します。
- ②電源コードは3芯、公称断面積 $3.5\text{mm}^2$ (許容電流33A)以上のCVケーブルを使用します。
- ③CVケーブルの黒の線(電圧線L1/L2)は電源プラグの「X」端子または「Y」端子に接続し、白の線(中性線N)は電源プラグの「W」端子に接続し、赤の線(アース)は「G」端子に接続します。



# 電気の取り出し方

## 配線方式 (200V/25A)

- ①電源プラグはNEMA規格L14-30Pに準拠した引掛プラグ(別売部品)を使用します。
- ②電源コードは3芯、公称断面積 $3.5\text{mm}^2$ (許容電流33A)以上のCVケーブルを使用します。
- ③CVケーブルの黒の線(電圧線L1)は電源プラグの「X」端子接続し、赤の線(電圧線L2)は電源プラグの「Y」端子に接続し、白の線(アース)は「G」端子に接続します。



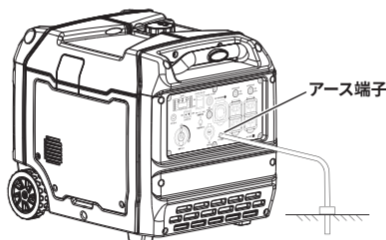
## DCシガーソケット 12V/8.3A

- 1.「発電機のかけ方」に従ってエンジンを始動します。
- 2.接続する12V車載用電気機器のスイッチが切れていることを確認し、シガーソケットへ車載用電気機器のプラグを確実に差込みます。
- 3.車載用電気機器のスイッチを入れます。正常運転(定格負荷以内)でご使用の場合は、出力表示ランプ(緑)が点灯し続けます。

## 発電機の接地方法

発電機に接続する電気機器を大地にアースした場合は、発電機の本体も必ずアースしてください。感電や不適切な電気使用による発電機の損傷を防ぐため、絶縁シース付きの良導体で発電機を接地することを推奨します。

- ①アース線は十分な電気容量を持つものをご使用ください。
- ②アース線の一端を発電機のアース端子に接続します。
- ③接地体(直径5~10mmの鉄の棒)を200mm下の大地に挿入し、導線で導出します。
- ④アース線のもう一方の端を、アース本体のリード線に接続します。



# 点検・整備の仕方

定期的にメンテナンスをする事によって本製品が最適な状態に保つ事ができます。

## ⚠ 警告



- ・交換する部品は当社の指定する部品以外は使用しないでください。
- ・取扱説明書に記載されている以外の分解や改造は行わないでください。

## ⚠ 注意



- ・メンテナンス前に本書を読み必要なツールや技術がある事を確認してください。
- ・火災や爆発の危険を回避するため、メンテナンス作業するときは注意が必要です。部品の洗浄にはガソリンではなく、不燃性の溶剤のみを使用してください。
- ・業務使用の場合、通常より短い期間でメンテナンスが必要となり、怠ると保証できない故障が発生する可能性があります。

## 定期点検表

- ※1 バッテリー寿命を長く保つため、少なくとも6ヶ月に一度満充電してください。
- ※2 初回のみ、1ヶ月後または20時間運転後にオイル交換を行ってください。
- ※3 ほこりの多い場所で作業した場合は、定期点検時期より早めに点検を行ってください。

対象部品	点検項目	始業点検	初回の1ヶ月後 または 20時間 運転後	3ヶ月毎 または 50時間 運転毎	6ヶ月毎 または 100時間 運転毎	12ヶ月毎 または 200時間 運転毎
バッテリー	・点検と充電				●※1	
エンジンオイル	・量の点検	●				
	・交換		●※2		●	
燃料	・量、漏れの点検	●				
エアクリーナー	・損傷、劣化の目視と 指触による点検	●				
	・清掃			●※3		
点火プラグ	・点検と清掃				●	
	・交換					●
燃料タンクストレーナー	・汚れ、詰まりの目視点 検および清掃				●	
マフラーワイヤネット	・清掃				●	
外装	・取り付けボルトのゆる み確認			●		

# 点検・整備の仕方

## バッテリーの充電

### ⚠ 注意



- ・バッテリー寿命を長持ちさせるためには、少なくとも6ヶ月に一度満充電してください。
- ・ACアダプターで充電する場合は必ずエンジン停止の状態で行ってください。
- ・専用ACアダプターはお買い上げ販売店にお問い合わせください。「アダプター仕様」  
出力: 14.5V~15.5V 2A MAX、プラグサイズ: 外径5.5mm 内径2.1mm

### 1.【専用ACアダプターで充電する場合】

- ①バッテリー配線コードのコネクターを接続します。
- ②ACアダプターの出力プラグをコントロールパネル部の充電口に差し込みます。
- ③ACアダプターのコンセントプラグを家庭コンセントに差し込みます。
- ④充電30分後に始動をお試しください。
- ⑤充電完了後、ACアダプターを外してください。

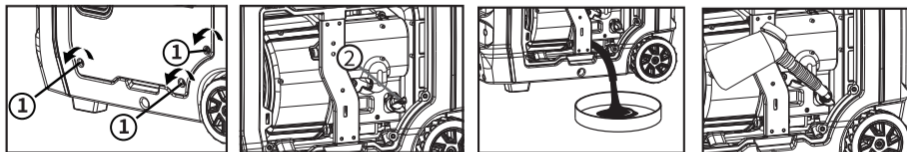
### 2.【発電機本体で充電する場合】

- ①バッテリー配線コードのコネクターを接続します。
- ②「発電機のかけ方」に従ってエンジンを始動します。
- ③エンジンが起動させると自動的に充電を開始します。
- ④1時間以上の発電機の連続運転(使用)を行ってください。
- ⑤充電完了後、エンジンを停止します。

## エンジンオイルの交換

- 1.エンジンを始動し、2~3分暖気運転をしてから停止します。エンジンオイルが排出しやすくなります。
- 2.排出するエンジンオイルを受け取る容器を用意します。
- 3.防護カバー(右面)のネジ①を外してから、手前に引いて取り外します。
- 4.オイルゲージ②を外し、付属のエンジンオイル排出用ホースを取り付けます。
- 5.発電機本体を傾けてエンジンオイルを抜きます。
- 6.付属のエンジンオイル排出用ホースを外します。
- 7.オイルジョッキをオイル給油口に差し込み、エンジンオイルを規定量給油します。
- 8.給油したらオイルゲージを取り付け、確実に締め付けます。防護カバーを取り付けます。

# 点検・整備の仕方



推奨オイル:4サイクル用エンジンオイル

API 分類:SE 級以上、SAE 粘度分類:10W-30 もしくは 5W-30

エンジンオイル規定量:0.55L

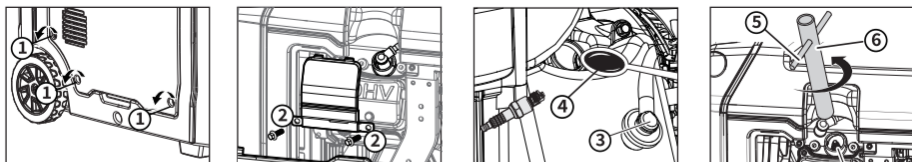
## 点火プラグの点検と清掃



指示

・やけどをしないよう、作業はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン停止直後のエンジン本体や排気口、点火プラグなどは非常に熱くなっています。

- 1.防護カバー(左面)の固定ネジ①(3本)を取り外した後、点火プラグメンテナンスカバーの固定ネジ②(2本)を取り外し、カバーを取り外します。
- 2.点火プラグキャップ③を点火プラグ④より外します。
- 3.プラグレンチハンドル⑤、プラグレンチ⑥で点火プラグを取外します。

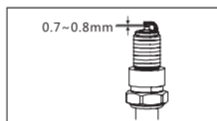


- 4.スパークプラグの焼け具合を点検します。電極付近は通常キツネ色に焼けますが、黒くくすぶっていたり白く焼けていたときはパーツクリーナーまたはワイヤーブラシで汚れ(カーボン)を落とします。
- 5.電極のすき間を確認し、下記寸法になっていない場合は調整します。

指定点火プラグ:BPR6ES (NGK)

電極のすき間:0.7~0.8mm

スパークプラグトルク:22.5 N.m



スパークプラグトルク:22.5 N.m

- 6.取り付けはまず手で一杯までねじ込み、次にプラグレンチで確実に締付けます。
- 7.点火プラグキャップを点火プラグに確実に取付けます。
- 8.点火プラグメンテナンスカバーを取付けます。

# 点検・整備の仕方

## ⚠ 注意

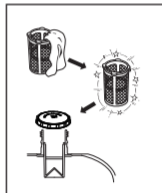
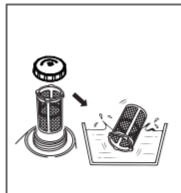


指示

- ・やけどをしないよう、作業はエンジンが冷えてから行ってください。エンジン停止直後のエンジン本体や排気口、点火プラグなどは非常に熱くなっています。

## 燃料タンクストレーナーの清掃

1. 燃料コックを「OFF」の位置にしてエンジンを停止します。
2. 燃料タンクキャップおよびストレーナーを取り外します。
3. ガソリンを使ってストレーナーを洗浄します。
4. ストレーナーをふいて燃料タンクに挿入します。
5. 燃料タンクキャップを取り付けます。



## ⚠ 警告



禁止

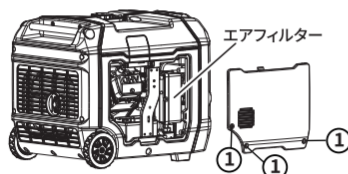
- ・作業中は喫煙したり、火気を近づけたりしないでください。

# 点検・整備の仕方

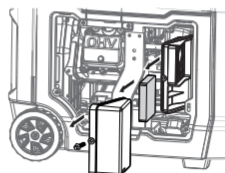
## エアクリーナエレメントの清掃

エアクリーナーが汚れて詰まるとエンジンに燃焼用の空気を送れず、点火しづらかったりエンジン回転数が安定しないなど、エンジン不具合の原因となります。定期的にエアクリーナーを清掃してください。土埃や埃などが多い環境で 사용되는場合は頻繁に点検清掃を行ってください。

1. ①のネジを外し、取っ手部分を利用して 防護カバー（左面）を開けます。



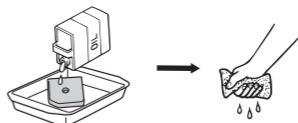
2. エアフィルター固定用のボルトをゆるめて、エアフィルタースポンジを引き抜きます。



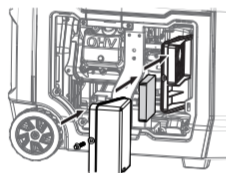
3. 「洗い油」または「水で薄めた中性洗剤」でエレメントを洗浄します。



4. エレメントをエンジンオイルにひたし、押しつぶすようにしぼります。オイルが垂れない程度に余分なオイルを取り除いてください。



5. エレメントをエアクリーナ本体にはめ込みます。エアクリーナカバーを元の位置に戻し、スクリュを締め付けます。



6. 防護カバーを確実に取付けます。



# 点検・整備の仕方

## ⚠ 警告



禁止

・ガソリンや可燃性溶剤を使用してエアフィルターを掃除すると火災や爆発を引き起こす可能性があります。石鹼水または不燃性溶剤のみを使用してください。

## ⚠ 注意



禁止

・エレメントは絶対にきつく絞らないでください。破れてエンジンが不調になることがあります。  
・エレメントを取り付けていない状態ではエンジンを絶対に始動させないでください。ピストンやシリンダーの摩耗の原因になります。



指示

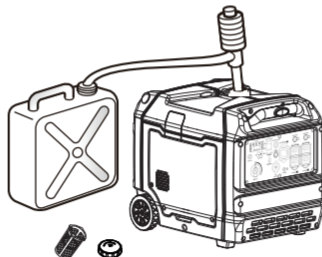
・エアクリーナーが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので、ほこりの多い場所で使用した場合は、定期点検時期より早めに清掃してください。

# 運搬する場合には

発電機を自動車・トラックなどの車両で運搬する場合は、以下を必ず守ってください。



## 運搬の場合

1. バッテリースイッチを「OFF」の位置にして、不意の誤作動を防ぎます。
2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販の手動式ガソリン用ポンプを使用して燃料を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



3. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。
4. 本機が落下、転倒、破損などしないような場所を選んで積載し、ロープなどでしっかり固定します。

## 警告

 禁止	<ul style="list-style-type: none"><li>・振動、衝撃などで燃料タンクの燃料がこぼれるおそれがありますので、ガソリンタンクに燃料を給油したまま運搬しないでください。</li><li>・ガソリンが気化して引火するおそれがありますので、発電機を車内やトランクなどに積載したまま、長い時間直射日光の当たる場所に放置しないでください。</li><li>・火災のおそれあり、車両に積載したまま使用しないでください。</li><li>・発電機の上に重い物を置かないでください。</li></ul>
 指示	<ul style="list-style-type: none"><li>・火災のおそれがありますので、予備のガソリンは消防法に適合した鉄製の携帯タンクに保管してください。</li><li>・本機が移動、横倒、落下、破損などしないような位置に積載してください。特に横倒したまま運搬すると、エンジンがかからなくなるなど、エンジン故障の原因となります。</li></ul>

# 一時保管・長期保管

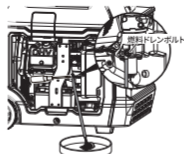
使用後または定期運転後、次の使用が3ヶ月以降になる場合は「一時保管」を、それ以上長期に渡って使用しない場合は「長期保管」を行ってください。これらを行わないと、故障の原因となります。

## 一時保管の場合

1. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り外し、市販の手動式ガソリン用ポンプを使用して燃料を抜きます。なお、電動式ポンプは使用しないでください。



2. 燃料タンクキャップおよびストレーナを取り付けます。
3. 燃料タンク内のガソリンを抜いた後、発電機を起動します。
4. 無負荷運転（電気機器は接続しない）を行ってです。エンジンが「ガス欠状態」で停止するまで待ちます。燃料タンク内の燃料残量によって「ガス欠状態」になるまでの時間は変わります。
5. エンジンが停止しましたら、左面の防護カバーのノブを回して、防護カバーを取り外します。
6. 排出するガソリンを受ける容器を用意します。
7. キャブレターのドレンパイプを容器で受け、ドレンネジをドライバーで弛め燃料を抜きます。キャブレター内のガソリンを抜かず長期間放置すると、ガソリンが変質しエンジンがかからなくなる場合があります。



8. ドレンネジを締め付け、ドレンパイプを元に戻します。
9. 防護カバーを取り付けて、ネジを確実に締め付けます。
10. バッテリースイッチを「OFF」の位置にし、燃料コックを「OFF」の位置にします。
11. 室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

## 長期保管の場合

1. “一時保管”の1～10の作業を行います。
2. 点火プラグを外し、プラグ孔からエンジンオイルを3～5mL給油します。
3. リコイルスターターグリップを2～3回ゆっくりと引いた後、点火プラグを取り付けます。
4. リコイルスターターグリップを引き、重くなった状態（圧縮状態）にします。
5. 各部の水、ほこりなどの汚れをきれいに清掃します。
6. 発電機にカバーを掛け、室内で湿気が少なく換気の良い場所に保管します。

# 不具合時の対応

故障は行き届いた点検整備により未然に防ぐことができます。故障の多くは、取扱いの不慣れや不十分な点検に起因しています。まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常がある場合はむやみに分解しないで買い上げの販売店にお問い合わせください。

症状	考えられる原因	処置	参照ページ
エンジンが 始動しない	燃料が入っていない	燃料を給油する	11ページ
	オイル警告ランプ(赤)が点灯している→エンジンオイルが入っていない、量が少ない	エンジンオイルを給油する	12ページ
	バッテリー配線が接続されていない	バッテリー配線を接続する	14ページ
	エンジンのかけ方に不足などがある	正しいかけ方を再確認する	14ページ
	エアクリーナーの汚れ	エアクリーナーの清掃	23ページ
	点火プラグかぶり、汚れ、破損	点検・清掃・交換	22ページ
	本機が傾いている → オイルアラート機構の作動	水平にする	13ページ
	問題のある燃料、エンジンオイルによるエンジン不調	正しい燃料・エンジンオイルに入れ替え	11ページ 12ページ
	複数の電気機器を使用するなど急に大きな電気を取り出した	電気を少しずつ取り出す	/
	点火プラグの劣化	点火プラグの点検・交換	22ページ
マフラーから白 煙が出る	エンジンオイルの入れ過ぎ	エンジンオイルを排出して規定量を注入する	12ページ
	SA級など、指定以外のエンジンオイルを使用する	指定のエンジンオイルと交換する	21ページ
電気が取り出 せない	過負荷警告ランプ(赤)が点灯・点滅、出力ランプが消灯する	過負荷の原因または使用器具の異常を改善する	17ページ
	水中ポンプ、コンプレッサーなど、起動時に大電流が流れる電気機器を使用	エコモードをOFFにする	17ページ
	シートをかぶせている、または屋内で使用するなどして本機の温度が高くなっている	本機周辺を点検する、または屋外で使用する	13ページ

# 仕様諸元

機種		DK5500iHE
発電部型式		多極界磁回転型
相数		単相
力率		1
交流(AC)	定格出力	5.0kVA
	最大出力	5.5kVA
	定格電圧	100V/200V
	定格電流	50A/25A
	定格周波数(切替式)	50Hz/60Hz
直流(DC)	定格電圧	12V
	定格電流	8.3A
エンジン	エンジン種類	空冷4ストロークOHVエンジン
	総排気量	224cc
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
	点火クプラグ	BPR6ES (NGK)
	エンジンオイル	4 サイクル用エンジンオイルSAE10W-30もしくは5W-30API分類SE級以上
	エンジンオイル規定量	0.55L
燃料タンク容量		11.5L
連続運転時間		定格連続運転時:約3.9h
		1/4 負荷連続運転時:約9.5h※1
騒音レベル(7m)		65dB※2
始動方式		リコイルスターター/電動スターター/リモコン
内蔵バッテリー		12.8V/2.0Ah(リン酸鉄リチウムバッテリー)
使用環境温度		-5°C~40°C
適用環境高度		1500m以下の地域※3
寸法(全長×全幅×全高)		58*44*50cm
乾燥重量		42kg

この仕様諸元は改良のため予告なしに変更することがあります。

※1:エコモード ON 時

※2:仕様諸元表に表示した騒音値は、エコモード ON(作動中)時で、機側7m、四方向の算術平均値です。異なる環境下での騒音はこの数値と変わる場合があります。

※3:標高1000mを越えると大気圧が低くなり空気密度が薄くなるため、発電出力が低下することがあります。

## 配線図

---

---

# 保証期間およびお問い合わせ

- ・本製品の保証期間はご購入より一年間となります。
- ・本製品の仕様は予告なしに変更する場合があります。予めご了承ください。
- ・本製品は使用電子部品の製造中止で、生産及び販売終了となる場合があります。予めご了承ください。
- ・お問い合わせの際、お客様へ確実に迅速に対応させていただくため、あらかじめ下記の事項をご確認の上、ご連絡ください。

①商品名

②ご購入先及びご注文番号

③本体の上部に貼られているバーコードラベルでの製造番号

④故障の状況(できるだけ詳しくご説明ください。メールでお問い合わせいただいた場合は不具合症状に関する写真または動画を添付いただけると幸いです。)

・ご不明な点や故障に関するご相談は、ご購入の販売店、または下記営業窓口にお問い合わせください。

## メールアドレス



support@eenour.com

受付時間:10:00-13:00、14:30-17:30

(土・日曜、祝祭日・年末年始および当社指定休業日は除く)

# 保証書

本保証書は再発行いたしません。大切に保管してください。

## 保証書

品 名	EENOURインバーター発電機
品 番	DK5500iHE
購 入 日	年 月 日
保証期間	上記ご購入日より1年間（消耗品を除く）
お 客 様	ご住所 〒
	電 話 ( )
	お名前 ----- 様

1. 取扱説明書、注意事項などにしたがって正常な使用状態で故障した場合に限ります。
2. 保証期間内に前項に該当する故障が発生した場合に限ります。
3. 消耗品に関しましては、保証対象外となります。
4. 保証期間内でも次の場合は、有料修理となります。  
 ＊本書のご提示がない場合や、購入日、販売店名の記載がない場合。  
 ＊使用上の誤り、他店・個人での修理、分解、改造、調整による故障等。  
 ＊お買い上げ後の移動、落下、天災地変、異常電圧による故障。
5. 保証書の発行により、ご購入者の法律上の権利を制限するものではありません。

### 免責事項

法律上の請求の原因の種類を問わずいかなる場合においても、本製品の使用または、使用不能から生ずる直接損害、間接損害（事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失等）、特別損害、付随的損害、経済的拡大被害（逸失した利益、ビジネス上の収益、信用あるいは節約すべきし費用を含む）、他の機器や部品に対するデータの損失または損害、第三者からの賠償請求に基づく損害、身体障害（身体障害に起因する死亡及び怪我を含む）に関して、弊社は一切の責任を負わないものとさせていただきます。